

# ぶどうの「べと病」に注意しましょう

平成 23 年 7 月 8 日(金)の中部・南河内地域巡回調査で、柏原市、太子町の露地ぶどう

う(デラウエア)でべと病の多発生を確認しました。(下表参照)

べと病は、気温 20～25 度、多雨で発生しやすく、例年梅雨頃から発生が広がります。

梅雨が明け、高温が続くと発生は減少しますが、秋期になり気温が下がると再び発生します。

べと病が蔓延し、早期落葉すると樹勢が著しく低下し、翌年以降の結実にも影響します。

収穫期に入っている園、収穫期が近い園が多いですが、収穫終了後も定期的にぶどう園を

見回り、べと病の早期発見・防除に努めてください。

また、夏の高温乾燥も樹勢の低下につながります。収穫終了後も、乾燥が続く場合、定期的にかん水を行ってください。

表 べと病の発病葉率(平成 23 年 7 月 8 日調査)

調査地点	発病葉率
柏原市青谷	40.0%
太子町太子	28.0%
平年値	6.1%

## 対策

病害が発生しやすい時期にボルドー液(4-4 式)を予防的に散布する。

発生が多い場合は、収穫終了後にリドミルMZ水和剤を散布する。

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府病害虫防除指針(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム  
(<http://acsearch.acis.famic.go.jp/famic/>)  
にて確認してください。